

資 料
No. 2
都市整備部

平成 22 年 10 月 5 日

高砂駅周辺地区の街づくりについて

高砂駅付近の踏切は、朝夕のピーク時間帯には、遮断時間が 50 分以上にも達する「開かずの踏切」であり、鉄道による地域分断や踏切による交通渋滞などにより、都市活動が大きく阻害され、区民生活にとっても危険な状態となっている。

また、本年 7 月には、都心と成田空港を 36 分で結ぶ成田新高速鉄道の開業に伴う、踏切の遮断時間の悪化を防ぐため、京成電鉄では、鉄道立体化までの当面の対策として、高砂駅付近における金町線高架化が実施されたところである。

しかし、金町線高架化による踏切対策は、遮断時間の現状維持に過ぎず、高砂駅付近の「開かずの踏切」における抜本的対策には、一日も早い鉄道立体化の実現が不可欠であることから、4 者による合同勉強会の開催や鉄道立体化に向けた駅周辺の街づくりについて検討を行っている。

以下、現在までの検討状況などについて報告する。

1 京成本線（京成高砂駅～江戸川駅付近）の鉄道立体化について

京成本線の鉄道立体化については、平成 13 年度から東京都、葛飾区、江戸川区及び京成電鉄の 4 者による「開かずの踏切対策及び街づくりに関する勉強会」を開催し、鉄道立体化に向けた検討を継続的に行っている。

合同勉強会における検討では、「鉄道連続立体交差高架案」を有力案として抽出するとともに、課題であった高砂車庫についても、既存車庫または既存車庫周辺に必要最低限の機能は残さざるを得ないものの、鉄道事業者より留置機能について約 3 割の削減の可能性が示されてきたところである。

このような中、京成本線（京成高砂駅から江戸川駅間）については、平成 20 年 6 月、都内 20 路線ある「鉄道立体化の検討対象区間」の中から、新たに国の事業採択を目指す「事業候補区間」の 5 区間に選定され、東京都では、今後、技術的課題やまちづくりの進捗などを勘案し、国の新規着工準備採択に向けて取り組んでいくことが明らかにされた。

そこで、昨年度の勉強会では、これまでの検討結果を踏まえながら、引き続き駅周辺の動線計画などについて検討を行った。

【資料1】

また、高砂車庫の取扱いについては、地元協議会から提案された「高砂駅周辺まちづくり基本構想」の中でも、都営高砂団地の創出用地に車庫を移転し、覆蓋化した上部を公園とする考えが示されており、現在、地元自治体である本区及び江戸川区、そして鉄道事業者である京成電鉄との間で、その実現性について検討を行っているところである。

【資料2】

本区としては、今後も鉄道立体化に対する技術的課題の解消をはじめ、沿線まちづくりの熟度をさらに高めるなど、一日も早い事業化に向けて積極的に取り組んでいく。

2 高砂駅周辺地区の街づくりについて

鉄道立体化に向け当該区間が、早期に鉄道立体の事業化区間として選ばれるためには、地元の熱意とともに駅を中心とした交通結節点機能の強化や地域の活性化など、事業効果を最大限に発揮する総合的なまちづくりを推進していくことが必要である。

そこで、地元の町会・商店会の9団体で構成される「高砂地区開発協議会」においては、平成17年度から鉄道立体化に併せた総合的なまちづくりを推進するため、駅周辺の交通利便性や防災性の向上、魅力と活力ある生活拠点の形成を目的に、街づくりの検討が進められている。

協議会では、これまでの街づくり活動の成果を「高砂駅周辺まちづくり基本構想案」として取り纏め、地域住民の方々を対象にまちづくり報告会や、高砂2丁目から5丁目の約6千世帯を対象にしたアンケート調査などを実施し、昨年6月には協議会から地域提案型の「まちづくり基本構想」が区に提案された。

そこで、区では、この地域提案を十分に尊重しながら、関係機関とも調整を図り、行政計画に位置付けるべく検討調査を進めるとともに、地元では、まちづくり基本構想の具体化を図るため、各ゾーンの将来イメージ等を示した「まちづくり方針(案)」を作成し、今後はさらに地域住民の意見を踏まえながら取り纏めていくことを検討している。

また、地元協議会では、こうした地域全体に関する検討に加えて、地区ごとの勉強会開催に向けても検討を行っていく予定である。

【資料3】